

第9回総合教育会議

議 題

スポーツを「する」「観る」「支える」環境づくりのために

さがデザイン
さがをかえるからさが変わる

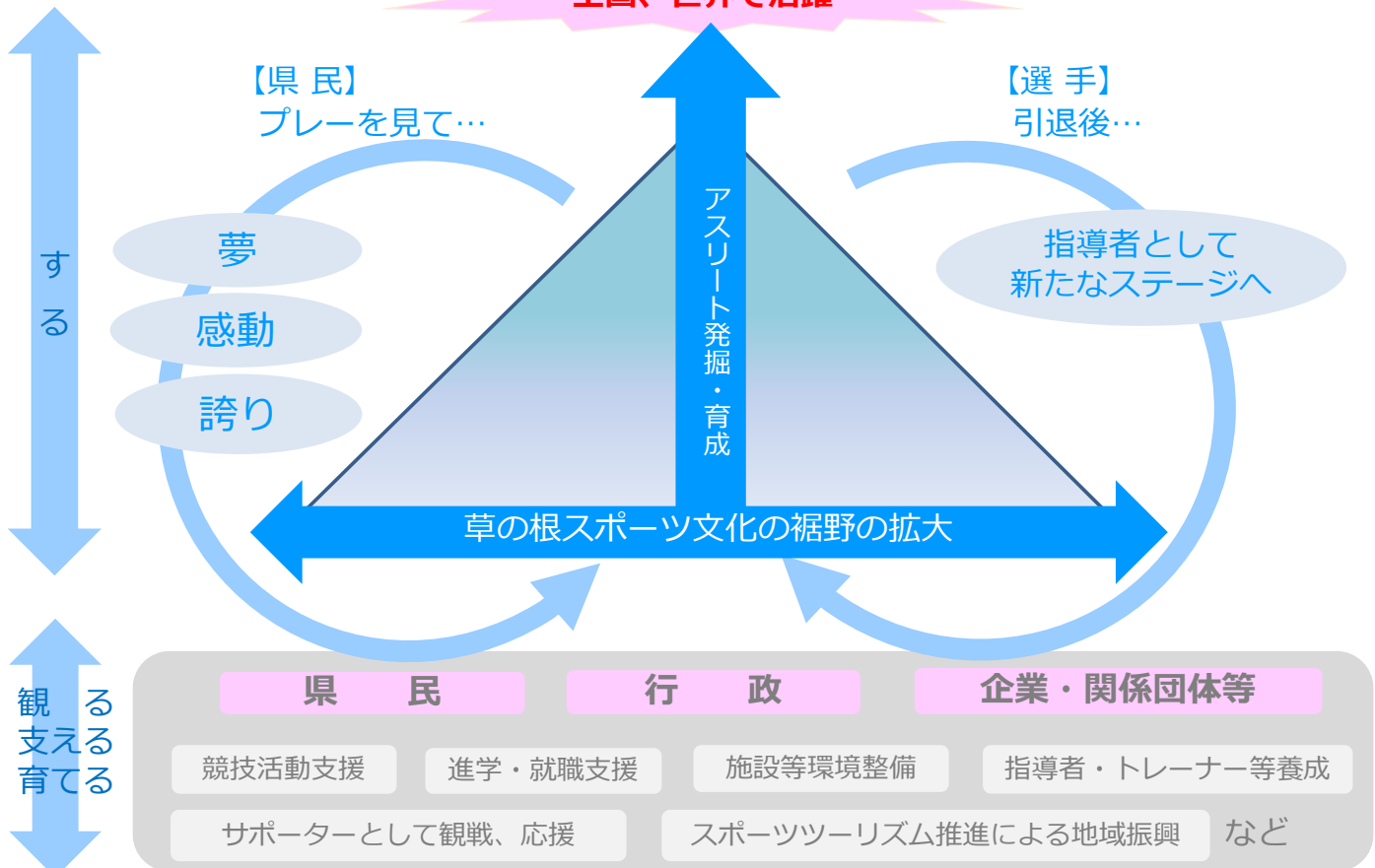
平成29年11月20日

1

これからの佐賀のスポーツを取り巻く社会のあり方について

～ 佐賀県はスポーツ選手の“志”を応援します！ ～

全国、世界で活躍



2

県内中学の有望スポーツ選手が県外高校へ流出している！

高校野球では、今夏甲子園で県外高校の県出身者が活躍。
 この他、サッカー、バスケットボール、バレーボールなど、様々なスポーツで有望選手が
 県外へ流出。

県外高校を選ぶ主な要因

強豪校としての実績

優秀な指導者の存在

整った施設・整備環境

魅力ある入学条件・待遇

進学・就職のフォロー

熱心な勧誘

県内を基盤に活躍するアスリート



佐賀工業高校1年(柔道部)

近藤隼斗さん

県外強豪校の誘いを断り、
 佐賀工業高校へ進学
 ・世界カデ選手権大会3位
 ・全日本カデ柔道体重別選手権
 大会優勝

佐賀北高校野球部監督
 久保貴大さん



夏の甲子園優勝後、大学、社会人で活
 躍。今年から母校の監督に就任し、
 次世代を育成

3

子どもたちがアスリートとしてそれぞれの夢を実現できる地域であるために

【指導者】

現状・課題		取組
養成及び 資質向上	○高い指導力や豊富な指導経験を有する優秀な指導者が少ない。	○トップアドバイザー招聘 ○スキルアップのための講習会・個別研修 ○スポーツアドバイザーの配置・活用
確保	○県内外の優秀な指導者を確保する必要がある。	○官公庁や企業における雇用の創出・促進の働きかけ

【少年選手】

現状・課題		取組
発掘	○未普及競技を含め選手人口の少ない競技がある。 ○自分の適性（潜在能力）に気付いていない選手がいる。	○スポーツ体験教室 ○出前講座 ○県体協主催のチャレンジスポーツ教室 ○競技・種目転向型トライアウト
育成・強化	○競技によっては小学生→中学生→高校生と繋がっていく計画的な一貫指導体制が構築されていない。 ○過去3年間の国体（少年種別）で8位以内に入賞できていない競技が多い。	○競技団体による計画的な育成・強化練習 ○運動部活動設立 ○スポーツ奨学金給付 ○強化指定選手認定 ○強化拠点校・地域指定 ○県中体連支援
確保	○優秀な選手が毎年、県外の強豪校に流出している。	○スポーツ奨学金給付 ○強化指定選手認定

4

・部活動の現状及び効果的な部活動の在り方について

【教育委員会】

平成29年11月20日

さがデザイン
さがをかえるには心をかえる

5

県内公立学校の部活動の現状

県内中学校全般の現状

- ・公立中学校生徒数：H19年度(26,838人) ⇒ H28年度(23,512人) **3,326人減**
- ・生徒数減に伴い、教員数の減となり**複数顧問配置不可**、部活動削減に向けて検討
- ・部活動削減については、地域や保護者、生徒から**反対の声が多く難航**
- ・競技経験のない指導者配置状況：県内中学校318部／790部 **40.3%** (H29.5調べ)
- ・外部指導者の活用状況：中体連登録者数 H19年度(226人) ⇒ H29年度(309人) **83人増**
- ・合同部活動の状況：**8部活動(三養基、神埼、佐賀、小城、多久、唐津地区)**(H29.5月現在)

A中学校の例

【部活動数に応じた顧問配置が難しい例】

- ・H19年度⇒生徒数(450人)、部活動数(15部) H29年度⇒生徒数(290人)、部活動数(14部)
- ・顧問単独⇒生徒や保護者のニーズに応える⇒土日返上で指導⇒(多忙、負担感)
- ・生徒数に見合った部活動数に削減⇒地域、生徒、保護者が反対(伝統、なぜ〇〇部?)
- ・学校とPTA、部活動保護者会が協議⇒エントリー数に達していない部活の廃部⇒3年を要す
- ・現在も複数顧問配置ができず、外部指導者を活用して指導
- ・ソフトボール部部員6名のため、近隣中学校と合同にて大会出場⇒廃部を検討中

B中学校の例

【部活動を社会体育に移行した例】

- ・H19年度⇒学級数(18学級)、部活動数(18部) H29年度⇒学級数(14学級)、部活動数(16部)
- ・水泳部⇒社会体育で活動する生徒の増加⇒入部する生徒減少⇒平成26年度から募集停止
- ・平成27年度⇒3年生の部員が引退⇒廃部(活動を社会体育メインに)
- ・合唱部⇒部員不足で廃部
- ・部活動数を調整⇒現在、複数顧問の配置が維持可能

6

■教職員の多忙化の状況について

○全国の状況 教員勤務実態調査(平成28年度文科省調査)

平日(教諭のみ)		小学校						中学校						時間:分		
平日(教諭のみ)	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減	
授業(主担当)	4:06	3:58	0:24	3:05	3:11	0:15	増加	0:07	0:00	0:08	0:03	0:00	0:00	0:03		
授業(補助)	0:16			0:21				0:01			0:00					
授業準備	1:17	1:09	0:08	1:26	1:11	0:15	増加	0:13	0:04	0:09	0:13	0:05	0:08			
成績処理	0:33	0:33	0:00	0:38	0:25	0:13		0:05	0:01	0:04	0:13	0:03	0:10	増加		
部活動・クラブ活動	0:07	0:06	0:01	0:41	0:34	0:07		0:04	0:02	0:02	2:10	1:06	1:04	増加		
合計	11:23	10:47	0:36	11:45	11:19	0:26		0:57	0:12	0:45	3:17	1:28	1:49			

中学校の
土日の部活動
が増加

文科省の通知等

H28.6.17通知 「学校現場における業務の適正化に向けて」

⇒ **部活動における休養日の設定の徹底**

H29.1.6通知 「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の 取扱い及び活用について」

⇒ **運動部活動の適切な運営**

H29.6.22通知 「教育委員会における学校の業務改善のための取組状況調査の結果(速報値)及び学校現場における業務改善に係る取組の徹底について」

⇒ **部活動の適切な運営**

H29.8.29 中央教育審議会 「学校における働き方改革に係る緊急提言」

⇒ **休養日を含めた適切な活動時間の徹底**

効果的な部活動の在り方について

～量より質を目指した指導～

休養日の設定

【統一した休養日】 ⇒ 11月から第3日曜日を県下一斉に休養日に設定

選手・指導者の育成・確保

【運動部活動指導者研修会】 ⇒ 全国トップレベルの指導者を招き研修会を実施 **「量より質」**

【教員採用試験】 ⇒ スポーツ・芸術特別選考、スポーツ分野の実績加点制度

【県立高校入試】 ⇒ 特色選抜B方式、全国で活躍した中学生を優先的に獲得する制度

外部指導者の活用

【外部指導者派遣事業】 ⇒ 競技経験のない顧問への技術サポート、高いレベルの指導

※ 中体連への登録者数(309名)、うち県より補助 H29: 中学校25校(51名)

【アスレティックトレーナーの派遣】 ⇒ スポーツ医・科学の見地からスポーツ障害を防ぐ指導

【外部指導者研修会】 ⇒ 指導技術の向上と学校教育への正しい理解を求める研修会の実施

教員の多忙化解消

【部活動指導員の検討】 ⇒ 単独での指導・引率が可能で、顧問教員の負担軽減を図る

※ 「教員の負担軽減」、「部活動の質的向上」(競技特性に沿った指導、能力に応じた指導 等)

